


(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立弥栄中学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2年	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、や市 弥栄支所 杵束まちづくりセンター 安城まちづくりセンター
ねらい	<p>○地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を通して、故郷に愛着を持ち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えをもち、発信する力を育てる。 		
1 取組の概要			
<p>・1年時は、「弥栄の未来を考える～持続可能なまちづくりに向けて～」できること、「弥栄の魅力発見」「情報発信」をゴールとした取組から、2つの「まちづくりセンター」の幅広いネットワークを活用し、多くの「ひと・もの・こと」と出会い、個別の興味関心に応じた探究活動に取り組み、具体的に自分としての意見を持ちまとめ、成果として発信することができた。</p> <p>・この経験を受け継ぎ、2年時では「修学旅行で弥栄の魅力を発信しよう」というテーマで取り組んだ。今年度も、2つのまちづくりセンターにお世話になり、さらに地域の魅力を深掘りすることができた。地域の方にも授業に参加していただき、有効な発信プランの改善策を見つけるために意見交換をすることができた。</p> <p>・地域の「や市」に出店しリハーサルを予定していたが、新型コロナウイルスの影響で取り止めとなり場所を自校体育館に変更して取り組み、感染対策を考慮して、全校生徒、2年生保護者、教職員をお客さん役として協力して貰い、出店</p> <p>・リハーサルをおこなった。</p> <p>・旅行先では松江テルサで、「石見神楽の紹介」と「特産品（キビソタオル、米、農産加工品）の販売活動」に取り組んだ。緊張しながらも、弥栄の魅力をしっかりと発信することができた。</p>			
			

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

・他地域で弥栄の魅力を発信するのは容易ではない。弥栄と他地域の文化や特徴を比較していく中で、どんな魅力をどのような形で発信すればよいのか試行錯誤することとなった。そこで、地域の「ひと・もの・こと」と深く関わり、人々の温かい思いを理解していく中で、故郷の魅力を再認識し、故郷への愛着や誇りもつことができた。

(学力育成の視点から)

・「誰とでもコミュニケーションがとれる」「協力して課題を解決し、より良いものを目指すことができる」「見通しを持ちながら準備を進めることができる」など、固定化した少人数の中では、互いに影響し合うことも少なく、「思考・判断・表現する力」や互いに高め合うことに必要な「きいて伝える力」が育ちにくいと考えた。そこで、1年時の学習を土台に、他地域への「弥栄の魅力発信」のレベルアップした活動を通して、地域の方々と深く意見交換を繰り返し進めていく中で、これらの力を身につけさせたいと考えた。



地域の方々と一緒に弥栄の特産品や農産物について考えています。



体育館で販売活動のりお客は、全校生徒、教職員で2年保護です。

3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

・地域やまちづくりセンターの方々が授業にも参加してくださり、話を聞くなど積極的な意見交換をする中で、生徒は故郷の魅力を再発見するとともに、人々がつながりを持ち続けることの大切さに気付くことができた。また、地域の特産品や伝統文化を活用し他地域へ発信するまでの過程は、生徒たちの故郷に対する思いを強固なものにすることができた。

(学力育成の視点から)

・石見神楽や販売活動について調べたことをもとに、展示や説明の仕方をいろいろ考え、地域の方々と意見交換をしたことは、とても効果的であった。以前に比べ、誰とでもコミュニケーションができるようになった。協力して課題を解決したり、より良いものを目指したりできるようになってきた。修学旅行先での「弥栄の魅力発信」は準備がとても大変だったが、活動後に頂いたお客様からのメッセージは、生徒たちには自己肯定感が高まるものだった。

4 課題や今後の展望

・生徒5人で3つの取組は多かった。2人で相談しながらの取組はできるが、1人は生徒間の関わりが生まれにくく、見通しを持ちながらの準備がなかなか難しかった。「きいて伝える力」「インタビュー力」など、個別になると自信が持てない様子だった。対大人だけでなく、生徒同士の影響の及ぼし方も考慮しておく必要があった。

・次年度は、さらに地域に開かれた教育課程の実現に向けて、実践・振り返り・工夫を重ね、生徒に望む3つの力の「チャレンジ精神、思考力、きいて伝える力」を高めていきたい。